

平成 28 年版 治山・林道必携（積算・施工編） の正誤訂正関係資料について（追加）

本資料は、平成 28 年 12 月 16 日付けで林野庁は正誤訂正資料を公表しました。

これを受け、内容を点検したところ、林野庁のこの公表資料には既に当協会が正誤訂正したもの、さらに正誤訂正したものを再訂正するものが含まれていることが分かりました。このため、以上の点を明記し、改めて訂度訂正する事項をこれまでの訂正を含め再度お知らせすることとしました。なお、新たに編集確認をしている中で、訂正する必要のある箇所（橋りょう工）がありましたので、今回はこの訂正を含めてお知らせします。

ご利用中の皆様にはご迷惑をおかけしますがよろしくお願い申し上げます。

記

<上巻 525～526 ページ> **（対応未済の訂正です）**

第 1 編 共通工 第 1 土工

1-12 小規模土工

1～2（略）

3 掘削積込作業及び積込作業 表 3.1、表 4.1、表 5.1 及び表 6.1 の訂正がありました。

表 3.1 日当たり施工量の地山の掘削積込とルーズな状態の積込の数値（下線赤字部分）の訂正です。

（誤）

作業の内容	名称	規格	単位	地山の掘削積込	ルーズな状態の積込
標準	バックホウ運転	排出ガス対策型（第 2 次基準値）・クローラ型 山積 0.28 m ³ （平積 0.2 m ³ ）	m ³	<u>38</u>	<u>44</u>
上記以外	〃	〃 山積 0.13 m ³ （平積 0.1 m ³ ）	〃	<u>16</u>	<u>23</u>

↓

（正）

作業の内容	名称	規格	単位	地山の掘削積込	ルーズな状態の積込
標準	バックホウ運転	排出ガス対策型（第 2 次基準値）・クローラ型 山積 0.28 m ³ （平積 0.2 m ³ ）	m ³	<u>37</u>	<u>42</u>
上記以外	〃	〃 山積 0.13 m ³ （平積 0.1 m ³ ）	〃	<u>15</u>	<u>22</u>

4 舗装版破碎積込作業

(略)

表 4.1 日当たり施工量の単位と数量（赤字部分）の訂正がありました。

(誤)

名称	規格	単位	数量
バックホウ運転	排出ガス対策型（第2次基準値）・クローラ型 山積 0.13 m ³ （平積 0.1 m ³ ）	m ³	26

↓

(正)

名称	規格	単位	数量
バックホウ運転	排出ガス対策型（第2次基準値）・クローラ型 山積 0.13 m ³ （平積 0.1 m ³ ）	m ²	23

5 床堀量

(1) 日当たり施工量

(略)

表 5.1 日当たり施工量の数量（赤字部分）の訂正がありました。

(誤)

名称	規格	単位	数量
バックホウ運転	排出ガス対策型（第2次基準値）・クローラ型 後方超小旋回型 山積 0.28 m ³ （平積 0.2 m ³ ）	m ³	35

↓

(正)

名称	規格	単位	数量
バックホウ運転	排出ガス対策型（第2次基準値）・クローラ型 後方超小旋回型 山積 0.28 m ³ （平積 0.2 m ³ ）	m ³	32

6 埋戻作業

(1) 適用範囲

(略)

(2) 日当たり施工量

表 6.1 日当たり施工量の数量（赤字部分）の訂正がありました。

(誤)

名称	規格	単位	数量
バックホウ運転	排出ガス対策型（第2次基準値）・クローラ型 後方超小旋回型 山積 0.28 m ³ （平積 0.2 m ³ ）	m ³	41
タンパ運転	60～80kg	〃	37

↓

(正)

名称	規格	単位	数量
バックホウ運転	排出ガス対策型（第2次基準値）・クローラ型 後方超小旋回型 山積 0.28 m ³ （平積 0.2 m ³ ）	m ³	40
タンパ運転	60～80kg	〃	36

<上巻 627 ページ> (対応済みのものの再訂正です)

第1編 共通工 第4(1) 溝渠工・法枠工等

4-1-9 暗渠配水管（硬質塩化ビニル管、ポリエチレン管等の有孔・無孔管）

配水管敷設歩掛の直管の継手材料比率欄の数値は、11月17日の更新で「二」とされているところを「10」に改めるようお知らせをしておりましたが、これを再度「10」から「一」に訂正するものです。

<上巻 760 ページ> (対応済みです)

第1編 共通工 第5(2) 土留工・擁壁工等

5-4-2 コンクリートブロック積（張）工

1～3 （略）

4 単価表

(1)～(8) （略）

(9) 吸い出し防止材（全面）設置工 10 m²当たり単価表の諸雑費の摘要欄の「〃 (注) 3」の記載は、10月14日更新の正誤表で削除するようお知らせしており、対応済みです。

<上巻 808 ページ> (対応未済の訂正です)

第1編 共通工 第5(2) 土留工・擁壁工等

5-10 井桁ブロック土留工歩掛

1～2 （略）

3 施行歩掛

(1)～(2) （略）

(3) 現場打基礎コンクリート打設工

① (略)

② 現場打基礎コンクリート打設工歩掛の表 3.4 現場打基礎コンクリート打設歩掛 (10 m³ 当たり) の表中コンクリートポンプ車運転 規格「ブーム式 90~110 m³/h」の単位が「日」となっておりますが、これを「h」に訂正するものです。

<上巻 891 ページ> (訂正の必要はありません)

第1編 第7 木材利用工

7-1-6 (参考歩掛) 木製校倉式土留工

1~3 (略)

4 施工歩掛

組立・中詰施工歩掛(体積 10 m³当たり)の表中タンパ運転の数量欄の土砂中詰の「0.23」は、正しい数値ですので、訂正の必要はありません。

<上巻 943 ページ> (対応未済の訂正です)

第1編 第7 木材利用工

7-12-2 木製校倉式治山ダム工

1~5 (略)

6 単価表

(1) (略)

(2) 詰石

(誤)

(体積 1 m³当たり)

名称	規格	単位	数量	摘要
山林砂防工 (普通作業員)		人 (〃)	0.14	4-(2)
バックホウ運転	クローラ型 <u>クレーン機能付</u> 排出ガス対策型 山積 0.80 m ³ (平積 0.60 m ³)	h	0.13	〃
詰石材		式	1	〃、5
計				

(正)

(体積 1 m³当たり)

名称	規格	単位	数量	摘要
山林砂防工 (普通作業員)		人 (〃)	0.14	4-(2)
バックホウ運転	クローラ型 排出ガス対策型 山積 0.80 m ³ (平積 0.60 m ³)	h	0.13	〃
詰石材		式	1	〃、5
計				

<上巻 949 ページ> (対応済です)

第1編 第8 仮設工

8-1 仮設工

1 (略)

2 仮設工の積算

(1)~(2) (略)

(3) 仮設材の損料率

表 2.1 (略)

表 2.2 足場材、支保材、防護柵の材料損料率表の木材、金網の資材別、使用期間別の損料率については、11月30日更新のお知らせで訂正済みです。

<上巻 1037 ページ> (対応未済の訂正です)

第1編 第8 仮設工

8-11-3 油圧式圧入引抜き工

1~2 (略)

3 施工歩掛 (1)~(2) (略)

(3) 日当たり施工枚数 ① 圧入、引抜き(継施工なし) (略)

ア 圧入(Nmax≤25) (略)

イ 圧入(Nmax≤50)

表 3.6 日当たり施工枚数(N)

(誤)

圧入長 鋼矢板形式	(N/日)								
	2以下	4以下	6以下	9以下	12以下	15以下	19以下	23以下	25以下
Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ型	41 (42)	30 (33)	24 (27)	19 (22)	16 (18)	13 (15)	11 (13)	9.3 (11)	— (—)
V _L ・VI _L 型	40 (41)	29 (31)	23 (25)	18 (20)	14 (16)	12 (14)	10 (12)	8.4 (9.9)	7.5 (8.9)
Ⅱ _w ・Ⅲ _w ・Ⅳ _w 型	40 (41)	29 (31)	23 (25)	18 (20)	14 (16)	12 (14)	9.8 (11)	8.3 (9.7)	7.4 (8.7)
10H・25H型	39 (40)	27 (30)	21 (23)	19 (19)	13 (15)	11 (12)	8.7 (10)	7.3 (8.8)	6.5 (7.8)

↓

(正)

圧入長 鋼矢板形式	(N/日)								
	2以下	4以下	6以下	9以下	12以下	15以下	19以下	23以下	25以下
Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ型	41 (42)	30 (33)	24 (27)	19 (22)	16 (18)	13 (15)	11 (13)	9.3 (11)	— (—)
V _L ・VI _L 型	40 (41)	29 (31)	23 (25)	18 (20)	14 (16)	12 (14)	10 (12)	8.4 (9.9)	7.5 (8.9)
Ⅱ _w ・Ⅲ _w ・Ⅳ _w 型	40 (41)	29 (31)	23 (25)	18 (20)	14 (16)	12 (14)	9.8 (11)	8.3 (9.7)	7.4 (8.7)
10H・25H型	39 (40)	27 (30)	21 (23)	16 (19)	13 (15)	11 (12)	8.7 (10)	7.3 (8.8)	6.5 (7.8)

<上巻 1042 ページ> (対応未済の訂正です)

第1編 第8 仮設工

8-11-3 油圧式圧入引抜工

1～2 (略)

3 施工歩掛 (1)～(2) (略)

(3) 日当たり施工枚数 ① 圧入、引抜き(継施工なし) (略)

② 圧入(継施工あり)

ア 圧入($N_{max} \leq 25$) (略)

イ 圧入($N_{max} \leq 50$)

訂正箇所は次ページのとおりです。

(誤)

(N/日)

鋼矢板形式 \ 圧入長	2 以下	4 以下	6 以下	9 以下	12 以下	15 以下	19 以下	23 以下	25 以下
Ⅱ型	18 (18)	16 (17)	14 (15)	12 (13)	11 (12)	—	—	—	—
Ⅲ型	15 (18)	13 (14)	12 (13)	11 (11)	9.6 (10)	8.4 (9.2)	7.5 (8.4)	—	—
Ⅳ型	13 (14)	12 (12)	11 (11)	9.7 (10)	8.9 (9.5)	7.9 (8.6)	7.1 (7.9)	6.2 (7.1)	—
V _L 型	8.0 (8.0)	7.4 (7.6)	7.0 (7.1)	6.4 (6.7)	5.8 (6.2)	5.5 (5.8)	5.0 (5.5)	4.4 (5.0)	4.4 (4.7)
VI _L 型	6.7 (6.7)	6.3 (6.4)	5.9 (6.1)	5.5 (5.7)	5.1 (5.3)	4.8 (5.1)	4.4 (4.8)	4.0 (4.4)	4.0 (4.2)
Ⅱ _w	17 (17)	15 (15)	13 (13)	11 (12)	9.4 (10)	8.5 (9.4)	—	—	—
Ⅲ _w	13 (13)	12 (12)	11 (11)	9.5 (10)	8.2 (8.9)	7.5 (8.2)	6.7 (7.1)	5.7 (6.7)	5.2 (6.2)
Ⅳ _w 型	9.8 (9.9)	9.0 (9.2)	8.3 (8.6)	7.5 (7.9)	6.7 (7.2)	6.2 (6.7)	5.7 (6.0)	5.0 (5.7)	4.6 (5.3)
10H	9.2 (9.2)	8.3 (8.6)	7.6 (7.9)	6.9 (7.4)	6.2 (6.7)	5.7 (6.0)	—	—	—
25H 型	7.3 (7.3)	6.8 (6.9)	6.3 (6.5)	5.8 (6.1)	5.3 (5.6)	5.0 (5.1)	4.5 (4.7)	3.9 (4.5)	3.9 (4.2)

↓

(正)

(N/日)

鋼矢板形式 \ 圧入長	2 以下	4 以下	6 以下	9 以下	12 以下	15 以下	19 以下	23 以下	25 以下
Ⅱ型	18 (18)	16 (17)	14 (15)	12 (13)	11 (12)	—	—	—	—
Ⅲ型	15 (15)	13 (14)	12 (13)	11 (11)	9.6 (10)	8.4 (9.2)	7.5 (8.4)	—	—
Ⅳ型	13 (14)	12 (12)	11 (11)	9.7 (10)	8.9 (9.5)	7.9 (8.6)	7.1 (7.9)	6.2 (7.1)	—
V _L 型	8.0 (8.0)	7.4 (7.6)	7.0 (7.1)	6.4 (6.7)	5.8 (6.2)	5.5 (5.8)	5.0 (5.5)	4.4 (5.0)	4.4 (4.7)
VI _L 型	6.7 (6.7)	6.3 (6.4)	5.9 (6.1)	5.5 (5.7)	5.1 (5.3)	4.8 (5.1)	4.4 (4.8)	4.0 (4.4)	4.0 (4.2)
Ⅱ _w	17 (17)	15 (15)	13 (13)	11 (12)	9.4 (10)	8.5 (9.4)	—	—	—
Ⅲ _w	13 (13)	12 (12)	11 (11)	9.5 (10)	8.2 (8.9)	7.5 (8.2)	6.7 (7.1)	5.7 (6.7)	5.2 (6.2)
Ⅳ _w 型	9.8 (9.9)	9.0 (9.2)	8.3 (8.6)	7.5 (7.9)	6.7 (7.2)	6.2 (6.7)	5.7 (6.0)	5.0 (5.7)	4.6 (5.3)
10H	9.2 (9.2)	8.3 (8.6)	7.6 (7.9)	6.9 (7.4)	6.2 (6.7)	5.7 (6.0)	—	—	—
25H 型	7.3 (7.3)	6.8 (6.9)	6.3 (6.5)	5.8 (6.1)	5.3 (5.6)	5.0 (5.1)	4.5 (4.7)	3.9 (4.5)	3.9 (4.2)

<上巻 1445 ページ> (編集作業の際確認した訂正です)

第3編 林道 第3橋梁工

3-3 PC桁架設工

1~4 (略)

5 横組工

(略)

(1)~(4) (略)

(5) 足場工及び防護工

① 足場工 (略)

② 防護工

ア 板張防護工

(誤)

桁下に鉄道、道路等があり、第三者に危害を及ぼすおそれのある場合に設置し、5-(5)-①-アで求めた桁下足場工費に別途計上する。

なお、工費には、側面防護（朝顔）の費用も含まれている。

$$\text{防護工費（両面朝顔）} = (70 + 100X + 0.05y) \times A$$

(略)

↓

(正)

桁下に鉄道、道路等があり、第三者に危害を及ぼすおそれのある場合に設置し、5-(5)-①-アで求めた桁下足場工費に別途計上する。

なお、工費には、側面防護（朝顔）の費用も含まれている。

$$\text{防護工費（両面朝顔）} = (70 + 150X + 0.05y) \times A$$

<上巻 1480 ページ> (対応済です)

第3編 第4 道路維持工

4-1-2 切削オーバーレイ工

1~6 (略)

7 単価表

(1) 切削オーバーレイ 100 m²当たり単価表 (略)

(2) 機械運転単価表の路面清掃車の7 cm以下お一層舗設、7 cmを超え12 cm以下の一層舗設及び二層舗設のそれぞれの燃料消費量の訂正ですが、この訂正については、10月14日更新の訂正で応済みです。

<上巻 1082 ページ> (対応未済の訂正です)

第3編 林道 第4 道路維持工

4-2-1 舗装版破碎工 (機械)

1～2 (略)

3 機種を選定

表 3.1 機種の種類

(誤)

作業種別	機械名	規格	単位	数量	摘要
直接掘削積込み	バックホウ	排出ガス対策型 (第1次基準値) クローラ型山積 0.45 m ³ (平積 0.35 m ³)	台	1	
バックホウによる積込み			〃	1	
コンクリート破碎機による取りこわし	コンクリート圧碎機	開口幅 735mm～850mm 破碎力 549～981kN (56～100t)	〃	1	
	(コンクリート圧碎機ベースマシン) バックホウ	排出ガス対策型クローラ型 (第1次基準値) 山積 0.45 m ³ (平積 0.35 m ³)	〃	1	
大型ブレーカーによる取りこわし	大型ブレーカー	ブレーカ 600～800kg 級	〃	1	
	(大型ブレーカーベースマシン) バックホウ	排出ガス対策型クローラ型 (第1次基準値) 山積 0.45 m ³ (平積 0.35 m ³)	〃	1	

↓

(正)

作業種別	機械名	規格	単位	数量	摘要
直接掘削積込み	バックホウ	排出ガス対策型 (第2次基準値) クローラ型山積 0.45 m ³ (平積 0.35 m ³)	台	1	
バックホウによる積込み			〃	1	
コンクリート破碎機による取りこわし	コンクリート圧碎機	開口幅 735mm～850mm 破碎力 549～981kN (56～100t)	〃	1	
	(コンクリート圧碎機ベースマシン) バックホウ	排出ガス対策型クローラ型 (第2次基準値) 山積 0.45 m ³ (平積 0.35 m ³)	〃	1	
大型ブレーカーによる取りこわし	大型ブレーカー	ブレーカ 600～800kg 級	〃	1	
	(大型ブレーカーベースマシン) バックホウ	排出ガス対策型クローラ型 (第1次基準値) 山積 0.45 m ³ (平積 0.35 m ³)	〃	1	

<上巻 1485～1492 ページ> (対応未済の訂正です)

第3編 第4 道路維持工

4-2-1 舗装版破砕工 (機械)

1～3 (略)

4 施工歩掛

(1) 舗装版の破砕と掘削・積込みの施工歩掛

① 舗装版の破砕施工歩掛 (略)

② 舗装版の掘削・積込施工歩掛

ア 編成人員 (略)

イ アスファルト舗装版の掘削・積込みをする作業の日当たり施工量

表 4.5 日当たり施工量 (Q₁)

(誤)

(m²/日)

使用機械	アスファルト舗装版厚 15 cm以下	15 cmを超え 40cm 以下
バックホウ排出ガス対策型 (第 1 次基準値) クローラ型山積 0.45 m ³ (平積 0.35 m ³)	490	370

↓

(正)

(m²/日)

使用機械	アスファルト舗装版厚 15 cm以下	15 cmを超え 40cm 以下
バックホウ排出ガス対策型 (第 2 次基準値) クローラ型山積 0.45 m ³ (平積 0.35 m ³)	490	370

ウ コンクリート舗装版の掘削・積込みをする作業の日当たり施工量

表 4.5 日当たり施工量 (Q₂)

(誤)

(m²/日)

使用機械	コンクリート舗装版厚 15 cm以下	15 cmを超え 35cm 以下 (15cm 以上 35 cm 以下)
バックホウ排出ガス対策型 (第 1 次基準値) クローラ型山積 0.45 m ³ (平積 0.35 m ³)	320	260

↓

(正)

(m²/日)

使用機械	コンクリート舗装版厚 15 cm以下	15 cmを超え 35cm 以下 (15cm 以上 35 cm 以下)
バックホウ排出ガス対策型 (第 2 次基準値) クローラ型山積 0.45 m ³ (平積 0.35 m ³)	320	260

(2) 舗装版の直接掘削・積込みの施工歩掛 (1487 ページ)

① 編成人員 (略)

② 舗装版を直接掘削・積込みする作業の日当たり施工量

表 4.9 日当たり施工量 (Q₃)

(誤)

使用機械	舗装版厚	10 cm以下	10 cmを超え 15cm 以下
	バックホウ排出ガス対策型 (第 1 次基準値) クローラ型山積 0.45 m ³ (平積 0.35 m ³)		810

↓

(正)

使用機械	舗装版厚	10 cm以下	10 cmを超え 15cm 以下
	バックホウ排出ガス対策型 (第 2 次基準値) クローラ型山積 0.45 m ³ (平積 0.35 m ³)		810

(3) ダンプトラックの運搬作業量 (1487 ページ)

① 舗装版を破碎後バックホウで掘削・積込みする場合のダンプトラック運搬作業

ア ダンプトラック (10t 積) による、100 m³当たりの基準運搬日数は下表による。

表 4.10 ダンプトラック運搬日数

表の「積込機械・規格」欄の記載を次のとおり訂正してください。

(誤)

「バックホウ 排出ガス対策型 (第 1 次基準値) クローラ型山積 0.45 m³ (平積 0.35 m³)」

↓

(正)

「バックホウ 排出ガス対策型 (第 2 次基準値) クローラ型山積 0.45 m³ (平積 0.35 m³)」

② 舗装版をバックホウで直接掘削・積込みをする場合のダンプトラック運搬作業 (1488 ページ)

ア ダンプトラック (10t 積) による、100 m³当たりの基準運搬日数は下表による。

表 4.12 ダンプトラック運搬日数

表の「積込機械・規格」欄の記載を次のとおり訂正してください。

(誤)

「バックホウ 排出ガス対策型 (第 1 次基準値) クローラ型山積 0.45 m³ (平積 0.35 m³)」

↓

(正)

「バックホウ 排出ガス対策型 (第 2 次基準値) クローラ型山積 0.45 m³ (平積 0.35 m³)」

5 単価表 (1490 ページ)

(1) 大型ブレーカ又はコンクリート圧砕機により舗装版を破碎し、バックホウにより掘削・積込みをする場合の 100 m²当たり単価表

(誤)

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	$100 \times \frac{1}{Q_1 \text{又は} Q_2}$	表 4.4 表 4.5 表 4.6
普通作業員		〃	$100 \times \frac{1}{A_1 \text{又は} A_2}$ + $100 \times \frac{1}{Q_1 \text{又は} Q_2}$	表 4.1 表 4.2 表 4.3 表 4.4 表 4.5 表 4.6
大型ブレーカ又はコンクリート圧砕機+バックホウ	排出ガス対策型 (第 1 次基準値) クローラ型 [ベースマシン] 山積 0.45 m ³ (平積 0.35 m ³)	〃	$100 \times \frac{1}{A_1 \text{又は} A_2}$	表 4.2 表 4.3
バックホウ運転	排出ガス対策型 (第 1 次基準値) クローラ型山積 0.45 m ³ (平積 0.35 m ³)	〃	$100 \times \frac{1}{Q_1 \text{又は} Q_2}$	表 4.5 表 4.6
諸雑費		式	1	表 4.7 (注) 5
計				

↓

(正)

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	$100 \times \frac{1}{Q_1 \text{又は} Q_2}$	表 4.4 表 4.5 表 4.6
普通作業員		〃	$100 \times \frac{1}{A_1 \text{又は} A_2}$ + $100 \times \frac{1}{Q_1 \text{又は} Q_2}$	表 4.1 表 4.2 表 4.3 表 4.4 表 4.5 表 4.6
大型ブレーカ又はコンクリート圧砕機+バックホウ	排出ガス対策型 (第 2 次基準値) クローラ型 [ベースマシン] 山積 0.45 m ³ (平積 0.35 m ³)	〃	$100 \times \frac{1}{A_1 \text{又は} A_2}$	表 4.2 表 4.3
バックホウ運転	排出ガス対策型 (第 2 次基準値) クローラ型山積 0.45 m ³ (平積 0.35 m ³)	〃	$100 \times \frac{1}{Q_1 \text{又は} Q_2}$	表 4.5 表 4.6
諸雑費		式	1	表 4.7 (注) 5
計				

5 単価表の続き (1492 ページ)

(1)~(3) (略)

(4) 機械運転単価表

(誤)

機械名	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ	排出ガス対策型 (第1次基準値) クローラ型山積 0.45 m ³ (平積 0.35 m ³)	機-18	[直接掘削・積込み] 運転労務数量→1.00 燃料消費量→72 機械損料数量→1.62 [破碎後掘削・積込み] 運転労務数量→1.00 燃料消費量→67 機械損料数量→1.62
大型ブレーカ	ブレーカ油圧式 600~800kg 級	機 20	機械損料 1→バックホウ (排出ガス対策型 (第1次基準値) クローラ型山積 0.45 m ³ (平積 0.35 m ³)) 運転労務数量→1.00 燃料消費量→62 機械損料数量→1.62 機械損料 2→大型ブレーカ (ブレーカ油圧式 600~800kg 級) 機械損料数量→1.404
コンクリート圧砕機	開口幅 735~850mm 破碎力 549~981kN (56~100t)	機-20	機械損料 1→バックホウ (排出ガス対策型 (第1次基準値) クローラ型山積 0.45 m ³ (平積 0.35 m ³)) 運転労務数量→1.00 燃料消費量→62 機械損料数量→1.62
			機械損料 2→コンクリート圧砕機 (破碎力 549~981kN (56~100t)) (開口幅 735~850mm) 機械損料数量→1.45
ダンプトラック	10t 積	機-22	運転労務数量→1.00 燃料消費量→76 機械損料数量→1.24

↓

(正)

機械名	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ	排出ガス対策型（第2次基準値）クローラ型山積 0.45 m ³ （平積 0.35 m ³ ）	機-18	[直接掘削・積込み] 運転労務数量→1.00 燃料消費量→60 機械損料数量→1.62 [破碎後掘削・積込み] 運転労務数量→1.00 燃料消費量→56 機械損料数量→1.62
大型ブレーカ	ブレーカ油圧式 600～800kg 級	機 20	機械損料 1→バックホウ（排出ガス対策型（第2次基準値）クローラ型山積 0.45 m ³ （平積 0.35 m ³ ）） 運転労務数量→1.00 燃料消費量→52 機械損料数量→1.62 機械損料 2→大型ブレーカ（ブレーカ油圧式 600～800kg 級） 機械損料数量→1.404
コンクリート圧砕機	開口幅 735～850mm 破碎力 549～981kN（56～100t）	機-20	機械損料 1→バックホウ（排出ガス対策型（第2次基準値）クローラ型山積 0.45 m ³ （平積 0.35 m ³ ）） 運転労務数量→1.00 燃料消費量→52 機械損料数量→1.62 機械損料 2→コンクリート圧砕機（破碎力 549～981kN（56～100t）） （開口幅 735～850mm） 機械損料数量→1.45
ダンプトラック	10t 積	機-22	運転労務数量→1.00 燃料消費量→69 機械損料数量→1.24

<上巻 1648 ページ> (対応未済の訂正です)

5 森林保全整備事業における施工パッケージ型積算方式の試行の実施

1章 土量変化率

1～2 (略)

3 適用土質及び機械損料補正

表 3.1 適用土質及び機械損料補正

(誤)

分類名称	掘削積込み		ダンプトラック運搬		敷均し・締固め
	適用土質	損料補正	適用土質	損料補正	損料補正
レキ質土	レキ質土	1.00	土砂	1.00	1.00
砂・砂質土	砂・砂質土	1.00	〃	1.00	1.00
粘性土	粘性土	1.00	〃	1.00	1.00
岩塊・玉石	岩塊・玉石	1.00	〃	1.00	1.00
<u>軟岩 I (A)</u>					
軟岩 I (B)	レキ質土	1.00	軟岩	1.00	1.00
軟岩 II	〃	1.00	〃	1.00	1.00
中硬岩	破碎岩	1.25	硬岩	1.25	1.25
硬岩 I・II	〃	1.25	〃	1.25	1.25

(正)

分類名称	掘削積込み		ダンプトラック運搬		敷均し・締固め
	適用土質	損料補正	適用土質	損料補正	損料補正
レキ質土	レキ質土	1.00	土砂	1.00	1.00
砂・砂質土	砂・砂質土	1.00	〃	1.00	1.00
粘性土	粘性土	1.00	〃	1.00	1.00
岩塊・玉石	岩塊・玉石	1.00	〃	1.00	1.00
<u>軟岩 I (A)</u>	<u>レキ質土</u>	<u>1.00</u>	<u>軟岩</u>	<u>1.00</u>	<u>1.00</u>
軟岩 I (B)	〃	1.00	〃	1.00	1.00
軟岩 II	〃	1.00	〃	1.00	1.00
中硬岩	破碎岩	1.25	硬岩	1.25	1.25
硬岩 I・II	〃	1.25	〃	1.25	1.25

以上